

富岡の技師たちの夢カタチに



「地元工業界」、そして「世界遺産」のシンボルを作ろう。壮大なミッションを掲げたプロジェクトが今、富岡で着々と進んでいる。富岡製糸場創業期の蒸気機関「ブリュナエンジン」を復元させるという動きで、挑んでいるのは地元の技術者たちだ。外観はほぼ完成し、17日には試運転を行う。日本の近代産業発祥の地に、その礎となった「象徴」が技術者たちの熱い思いと共に蘇る。

製糸場の動力源「ブリュナエンジン」復活へ

①ブリュナエンジンの最終チェックを行う製作委員会メンバー②富岡製糸場の動力源を蘇らせた地元の技術者たち③現物を測定し約3年かけて完成させた設計図④実物のブリュナエンジン(所蔵:博物館明治村)



「コッターを取ってくれ」「もつと右、あと3分」。「理論上は問題ないけどな」。4日、村上製作所内に男たちの威勢の良い声が響き渡った。エンジン組み上げに携わるのは30〜70代の約20人。部品の取り付け具合を確認しながら微調整をしている。午前9時に始まった作業は夕方まで続いた。

「富岡を盛り上げたい」。「地元工業界と製糸場のシンボルを作り、富岡を盛り上げよう」。富岡商工会議所の野口十九一(副会長、71)の呼びかけで、エンジン復元プロジェクトが始動したのは12年夏。地元企業38社による製作委員会(野口委員長)が組織された。ブリュナエンジン(全長約3.8m)とは

1872年開業の製糸場設立を主導したポール・ブリュナがフランスから輸入した国内最古の蒸気機関で、創業時から動力源として使われていた。現物は愛知の博物館明治村に展示されている。

「約3年かけ図面を作成」まず、メンバーは明治村を訪れ現地で測定作業を実施。青木正美さん(68)や大嶋新二さん(67)、谷順一さん(65)ら約10人が、現物の外観から構造や部品の形などを測定。実物を分解することとは出来ず、内部構造が不明瞭なところもあり作業は難航したが、約3年かけ設計図を作成。その数は300枚以上に及んだ。「手書きスケッチ、コンピューターによる3次元化と何度もブラッシュアップさせていった。当時の人の工夫が感じられ同じ技師として大いに刺激された」と青木さん。谷さんも「思い描いていたものが形になっていく喜びは何とも言えない」と笑顔を見せる。

直径2.5mのフライホイールから極小ネジまで、図面を基に約700の部品が製作され、先月18日から組立作業がスタート。メンバーは日々、総量3トン近くの巨大エンジンの復元に明け暮れる。石井五男さん(63)は、「約140年前の機械だが基本通りの丁寧な作られている。ロックネジ部分に装飾を施すなど職人の技術力と共に美意識の高さにも驚く」と微笑む。

「製糸場内で動態展示へ」組立開始から半月余、

朝日ぐんま

朝日新聞姉妹紙



発行 朝日ぐんま
☎ 027-221-1435
http://www.asahigunma.com
Email office@asahigunma.com
編集室 企画室
朝日フォトコン事務局
〒371-0805
群馬県前橋市南町4-37-8、
シャトレ南1階
FAX 027-221-1768

朝日新聞東京本社
〒104-8011
東京都中央区築地5-3-2
☎ 03-3545-0131

朝日新聞前橋総局
〒371-0026
前橋市大手町2-4-9
☎ 027-221-1101

群馬県朝日会
〒371-0805
前橋市南町4-37-8
☎ 027-221-5765

テレビ朝日前橋支局
〒371-0023
前橋市本町1丁目10-5
☎ 027-224-8030

情報をお待ち
しています

お店、サークル、イベント、企業や団体、街の話題などお寄せ下さい
朝日ぐんま編集室

感性豊かな作品を 中・高校生対象の写真コンテスト **25日** 締め切り

募集中 中高生フォトコン

群馬県朝日新聞グループ会とネットヨタ高崎は、「第1回朝日中学生高校生フォトコン」を初め皆さん、奮って応募下さい。大賞・朝日新聞社賞をはじめ、ネットヨタ高崎社長賞や特別審査員賞など全43賞を個人と団体に贈ります。特別審査員は、群馬のかわりアザラシ